

## 感染症対策研修会について

### ～めざせ感染症集団発生0件～

仙南保健所 疾病対策班 技術主査 氏家晃子

**Key words:** 感染症集団発生防止, 事前対応型・主体的対策

#### I はじめに

当保健福祉事務所では、学校や社会福祉施設における感染症の集団発生を予防するため、毎年研修会を開催している。しかし、管内の学校や社会福祉施設における感染性胃腸炎をはじめとする感染症の集団発生は、なかなか減らない。実際に集団発生があった施設の調査では、感染症の知識不足や消毒方法の不確かさ、保健所への報告の遅れ等があり、研修の内容について検討課題となっていた。

宮城県感染症予防計画では、事前対応型施策の推進が明記されており、感染症の集団発生を防止にするためには地域全体で取り組むことが必要であり、そのための一手段として研修について重点的に取り組んだので報告する。

#### II 活動内容

##### 1. 企画・準備・実施

- ①保育・教育・障害者・高齢者関係施設、介護保険事業所を対象に計画的に実施。
- ②成人・高齢班、食品衛生班からの情報収集。
- ③内容を対象施設の特性に合わせる工夫。
  - ・学校、保育施設、幼稚園、児童館の実態がわからなかったためアンケート調査を実施しその結果を反映。
  - ・研修会で知りたいことについて事前に意見を聴取し反映。
- ④演習を行う。食品講習会でも実施し対象を拡大。
- ⑤感染防止対策（特に消毒方法）に関する情報収集と、実際にやってみて演習資料を作成。

##### 2. 研修会の結果

出前講座の依頼、演習資材（手洗いチェッカー）の借用依頼、相談件数の増加。

#### III 考察

感染症対策についてはマスコミやインターネットなどの情報があふれる中で、正しい情報を提供することが重要である。そのため、食品衛生班はじめ他班の職員と所内横断的に消毒方法の検討や実験を行った。その結果をふまえて、マニュアル等で紹介されている消毒方法を実践するために必要な工夫や、施設の環境条件に合わせた消毒方法などを研修会で具体的に伝えることができた。

演習をすることで、日頃行っている方法を確認できたり、「わかった」「できた」と参加者自身がより深く理解でき、職場に持ち帰って他の人達に伝えよう、もしくは自分も職場で同じような研修をやってみようという意欲も引き出した。積極的に講師に質問をしたり、参加者同士の情報交換ができたのも演習場面だからではないかと考える。

また、演習資材の作り方や、演習の方法についても伝えたことで、参加者が職場で研修を行う際のアドバイスにもなった。

このような取り組みの結果、研修会をきっかけに出前講座や演習資材の貸出依頼、集団発生に至る前の相談が増えたことから、施設の自主的な行動につながったと考えられる。

#### IV 結論

研修会は、知識を一方向的に伝えるだけではなく施設のニーズや実態を反映させることと、演習を行うことで、参加者の行動変容や、所属施設における主体的な取り組みを促すことができることがわかった。

今後は、感染症の集団発生ゼロに向けて、集団発の背景、要因を分析し研修内容に活かし、施設が行っている感染症対策や、実際に集団発生があった施設が気づいたことを発表する場を設定するなど、関係機関が主体的に感染症予防に取り組めるような研修を企画し、地域全体で感染症予防と蔓延防止に重点を置いた事前対応型の対策を推進していきたい。

#### VI 引用・参考文献

- 1) 厚生労働省（2012）「保育所における感染症対策ガイドライン」
- 2) 厚生労働省（2013）「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」
- 3) 公益財団法人日本食品衛生協会（2015）「お客様 従業員 家族をノロウイルス感染症・食中毒からまもる」

